

STAGE+を楽しむ(194)(HP 収載)  
—クーベリックのブルックナー交響曲 4 番—

1. 始めに

前報(193)に引き続き、STAGE+のクーベリックのブルックナーの交響曲第 4 番の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は STAGE+のクーベリックのブルックナーの交響曲第 4 番の演奏を選びました。

クーベリックが振るブルックナー「ロマンティック」とモーツァルト「プラハ」ウィーンフィル

収録日: 1971 年 1 月 14 日

今なお高い人気を誇るチェコの名指揮者ラファエル・クーベリックの活動が本格化したのは、1961 年にバイエルン放送交響楽団の首席指揮者に就任してからでした。1979 年までの任期中に同楽団とドイツ・グラモフォンを中心にレコーディングを行い、数々の名盤を生みましたが、1971 年にウィーンフィルを指揮してブルックナーとモーツァルトの名交響曲を演奏したこちらの映像も必見です。クーベリックらしい誠実でバランスのとれたアプローチの仕方で、伸びやかに洗練された響きを構築していく様子をご堪能ください。

演奏:

ウィーンフィルハーモニー管弦楽団

指揮:

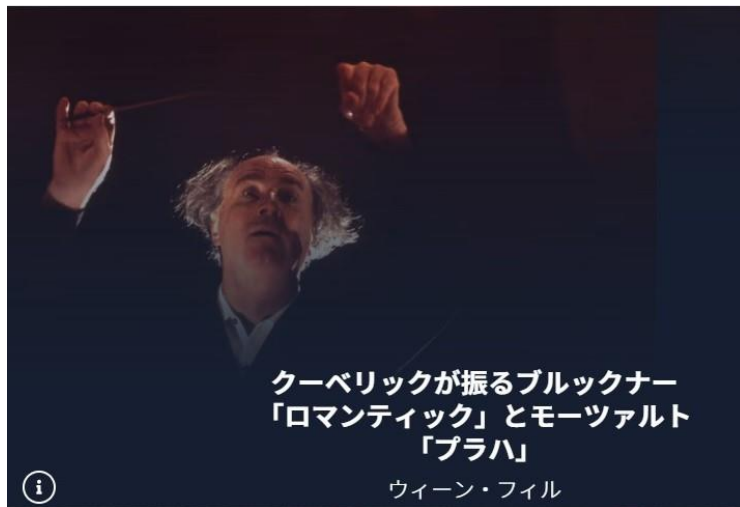
ラファエル・クーベリック

曲目:

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

交響曲第 38 番ニ長調 K. 504 《プラハ》

アントン・ブルックナー 交響曲第 4 番変ホ長調 《ロマンティック》



### 3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。

本年はブルックナー生誕 200 年ということで、演奏会やアーカイブの公開が続いています。

今回は、そのようなアーカイブからクーベリック指揮ウィーンフィルのブルックナーの交響曲第 4 番を試聴します。

ブルックナーの前に演奏されたモーツァルトの交響曲第 38 番《プラハ》は、1971 年の収録で、かならずしも音はよくありませんが、ウィーンフィルらしい美しいモーツァルトの旋律は、とことどころに伺えます。

ウィーンフィルのブルックナーの交響曲第 4 番は、クーベリックの端正でオーソドックスな指揮でウィーンフィルのしなやかで、かつ同時に厚みがある演奏を引き出しています。1971 年の収録ですが、おなじウィーンフィルで 1973 年録音のベーム指揮のアナログ盤と演奏も音もよく似ています。



#### 4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用した結果、クーベリックの端正でオーソドックスな指揮によるウィーンフィルのしなやかで、かつ厚みがある演奏が味わえます。

以上